

## 議会報告会実施報告書

開催日時	平成 30 年 11 月 12 日（月） 午後 7 時～8 時 30 分	開催会場	川合地区センター
出席議員	澤野 伸、伊藤 壽、林 則夫、亀谷 光、可児慶志 板津博之、富田牧子、渡辺仁美、山根一男		
班長	板津博之		
参加者数	12 名		
実施内容	議会のトビラにより平成 30 年度決算審査報告及び意見交換会		
質疑および 主な意見等	<p>&lt;1グループ&gt; 報告者 可児 慶志 記録者 板津 博之</p> <p>テーマ「災害への備え」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川合地区は昔から大きな水害・災害もなく、防災意識が低い。</li> <li>・8年前の豪雨災害を契機として、ここ数年公設市場からの雨水排水と合流する第一踏切のあたりで、越流した雨水が田んぼの方へ浸水するようになった。その水が民家周辺まで迫ってくることもある。市へは毎年自治会要望で対策をするようお願いしているが、なかなか対策を講じてもらえない。</li> <li>・川合地区だけの問題ではないが、宅地が増えたことにより土地の保水力が衰え、大雨が降ると各所で増水する傾向にある。</li> <li>・「災害への備え」としての自助についてはなかなか出来ていないが、多治見の公民館まつりを見る機会があり、その際に、地域の防災グループがハザードマップの危険個所の確認や災害時のトイレの実演をしていた。ゴミ袋を使って、水を固形化して脱臭するタイプのトイレだったが、災害時の備えとしては有効だと感じた。</li> <li>・川合地区の特性として、最近は戸建住宅が増えており、若い世帯が多くなったこともあり、自治会加入率が低下している。災害が起きても隣近所に誰が住んでいて、どういう家族構成かもわからない。議会の提言にもあったが、市民への情報提供を増やして欲しい。また、他の地区では自治会加入促進についてどのように取り組んでいるのか知りたい。</li> </ul> <p>『総務企画委員会所管分』 「東美濃ナンバーについて」</p> <p>問：東美濃ナンバーは結果として導入には至らなかったが、議会として今回の顛末についてどのように受け止めているのか。</p> <p>答：市としては、東美濃観光連携を進めるために東美濃ナンバーのPR活動を進めていたが、アンケート結果からもわかるように東美濃という名称の知名度が低く、市民のみなさんからも馴染みがないというご意見が多数を占めた。そういう民意を汲み取って議会としてもナンバーの導入には反対したが、今後の観光連携については積極的に行うよう行政へ提言している。</p>		

『建設市民委員会所管分』

「可児駅周辺の整備について」

問：東西自由通路が出来たことにより踏切が廃止され、車での東西の通行が不便になった。現在、駅の東側はロータリーの整備が行われているが、可児駅東西の通行の利便性を良くしてもらいたい。

答：可児駅西側の道路については、今後、南北に通っている道路を拡幅する予定なので、拡幅されれば現状よりは車での通行がしやすくなると思う。

『教育福祉委員会所管分』

「LGBTについて」

問：議会だよりの一般質問でLGBTについて取り上げているが、可児市では保健士さんとは別にスクールカウンセラーを配置されているが、これはLGBTの子どもに対応するために特別に配置しているのか。

答：スクールカウンセラーはLGBTに対応するために配置されているわけではなく、子ども達の困り感全般に対応するために配置している。LGBTの対応としては、市として独自の対応はまだ行っていないが、9月議会において、印鑑条例を改正して性別の記入をしなくても申請ができるようになっている。

「子育て健康プラザマーノについて」

要：駅前に開館した子育て健康プラザマーノで住民票や印鑑証明が取れるようにしてほしい。出来れば、職員も配置して夜遅い時間でも窓口業務で対応できるようにしてもらえるとありがたい。

<2グループ> 報告者 山根一男

記録者 渡辺仁美

テーマ「災害への備え」

「自治会未加入世帯について」

自治会加入率低下による諸問題について取りざたされる昨今、川合地区の加入率の低さについても悩んでいる。要因の一つに高齢世帯、特に年金生活者の自治会離れがみられる。その方たちは自治会費の負担だけでなく、高齢の不自由さから「班長もできなくなり迷惑をかける」と退会を希望される。遠慮なく居てもらうために、その方たちへの「特別配慮」が必要な時期に来ている。また、自己都合での未加入者や退会者については、罰則規定はないものの、一定程度のペナルティは課せないものかと考える。また、外国籍世帯の加入が少ないのも現状である。

「防災意識について」

川合地区は安全であるという住民の意識が強く見受けられ、防災力を高めるための興味関心を持つ必要がある。今後の啓発を検討していく必要がある。

「避難所収容人数について」

川合地区6000人の人口に対して、避難所である川合地区センターは収容人数150人で十分であるとは到底考えられない。実際に災害が起こった時これで対応できるのか、自治会としてもどのように行動してよいのか憂慮される。

『総務企画委員会所管分』

「大型災害について」

丸山ダム、松野湖、可児川などの堤防決壊による豪雨災害が発生したとき、可児市内の水位はどのようになるのか。大型災害を想定した新たなハザードマップの策定が必要である。それを地域防災計画に落とし込むことを期待する。

「外国籍市民への防災啓発について」

今渡在住であるが外国籍市民の居住者が多い。その人たちへの啓発を早急に進める必要がある。

『建設市民委員会所管分』

「危険箇所への安全対策について」

ため池などの周囲にガードレールのない箇所がある。事故が起きてからでは遅いので安全柵の設置を求める。

「生活排水について」

下水道未加入世帯による生活排水が水路に流されている。腐敗臭がひどい時もあり問題である。高齢世帯による下水道未加入が多いと聞くが補助金などで対応ができないものか。

「交通安全対策について」

可児市内全域に見られることと思うが道路上の白線が薄くなっている箇所がある。改善を求める。

「アンダーパスの危険性について」

川合地内にあるアンダーパスには、通行時の運転者への注意喚起がわかりづらいのではないかと思う。対策はできないか。

『教育福祉委員会所管分』

「民生児童委員の困り感について」

10月の一斉調査を行った際にも感じたが、あまりにも情報の開示が少なく個別の訪問がしづらい。個人情報取り扱いへの配慮は必要であるが、検討が必要と考える。

平成30年11月16日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

議会報告会 川合地区センター会場 班長 板津博之